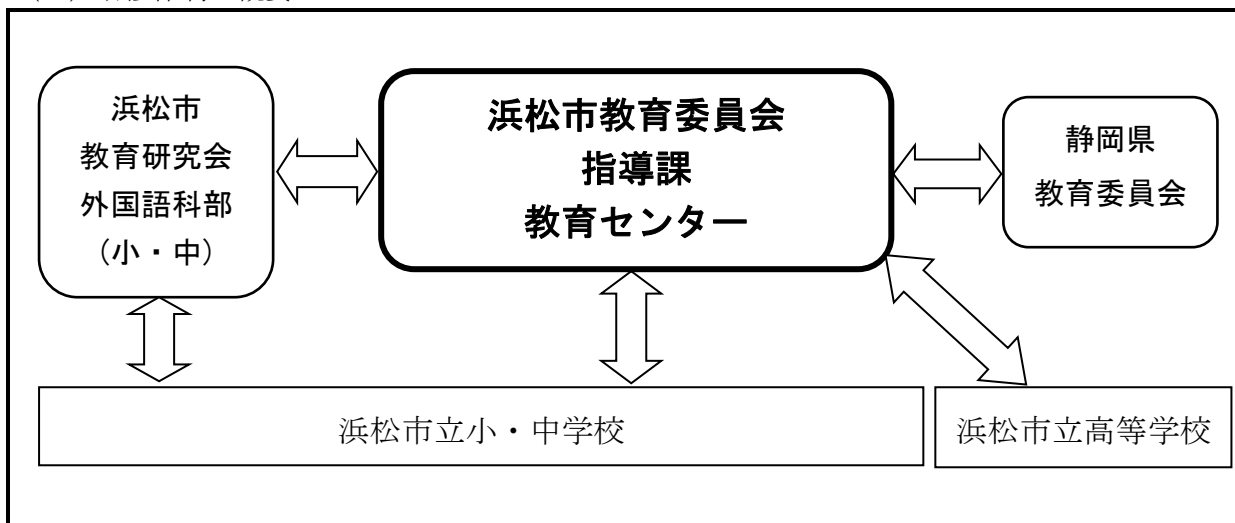


浜松市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

※2021年度の達成状況は文部科学省の「英語教育実施状況調査」により把握する予定。

※目標値は、別紙「目標管理書」による。

① CAN-DO リスト形式による学習到達目標の整備状況(設定・公表及び達成状況の把握等の状況) <中学校>

【2021年度以降の目標値】	2021年度	設定 100%	公表 20%	達成状況の把握 50%
	2022年度	設定 100%	公表 25%	達成状況の把握 60%

【方策】

- ・設定したCAN-DOリストの公表及び達成状況の把握について、各研修会で周知する。
- ・研修会において、CAN-DOリストの有用性を伝えるとともに、活用方法の実践例を提示し、教員の意識を高める。

<小学校>

【2021年度以降の目標値】	2021年度	設定 20%	公表 10%	達成状況の把握 10%
	2022年度	設定 30%	公表 15%	達成状況の把握 15%

【方策】

- ・研修会において、CAN-DOリストの有用性を伝えるとともに、先進的に取り組んでいる他の自治体の実践例を紹介し、CAN-DOリストの作成方法について周知する。

② 生徒の授業における英語による言語活動時間の占める割合(中学校)

【2021年度以降の目標値】	2021年度	87%
	2022年度	88%

【方策】

- ・「言語活動を通して資質・能力を育成する」ことの重要性を各研修会で重点的に周知するとともに、教員の実践意欲が高まるよう、言語活動の取組事例を紹介する。

③ パフォーマンステストの実施状況(中学校)

【2021年度以降の目標値】	2021年度	スピーキングテスト	4回	ライティングテスト	3回
	2022年度	スピーキングテスト	4回	ライティングテスト	3回

【方策】

- ・各研修会において、パフォーマンステストの実施方法や内容、評価の仕方について説明する。
- ・パフォーマンステストの具体的な実践例を紹介する。

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況（中学校）

1 単位時間のうち、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

【2021年度以降の目標値】	2021年度	87%
	2022年度	88%

【方策】

- ・言語活動中心の授業に変えていくことが、生徒や教師の英語による発話の割合を高めることにつながるため、言語活動の重要性とともに、新学習指導要領で重視されている「授業は英語で行うことを基本とする」ことを周知していく。
- ・指定教育研究校や訪問校での実践例を研修会で紹介し、教員の英語使用に対する意識を高める。

⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合（中学校）

【2021年度以降の目標値】	2021年度	39%
	2022年度	42%

【方策】

- ・各研修会において現状や数値目標を提示し、外部検定試験による資格取得に対する現職教員の意識を高める。
- ・教員採用試験において実施している有資格者への加点制度を継続していく。

⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合（中学校 第3学年）

【2021年度以降の目標値】	2021年度	45%
	2022年度	50%

【方策】

- ・各研修会において現状を伝え、英語能力に関する外部試験への関心を高める。
- ・英語力向上事業において、小中学校でモデル校を選定して外部試験を行った後、全校対象の悉皆研修を行い、児童生徒の英語力と教員の指導力向上に役立てる。

☆ 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合（小学校英語専科加配に係る）

2021年度採用予定者（達成値）	24%（21人）	参考（目標値）	21%（20人）
2022年度採用予定者（目標値）	26%（25人）		
2023年度採用予定者（目標値）	37%（35人）		
2024年度採用予定者（目標値）	42%（40人）		
2025年度採用予定者（目標値）	50%（45人）		

【方策】

- ・2021年度採用選考試験より、以下の英語資格を有する者に、2段階で加点を行い、小学校受験希望者が英語力の必要性を実感できるようにする。
 - ＜第1段階＞中学校英語免許状、英語検定2級、TOEFLiBT 60点以上、TOEIC 600点以上
 - ＜第2段階＞英語検定準1級、TOEFLiBT 72点以上、TOEIC 785点以上

(3) 研修の体系と内容の具体

【研修】

1. 中学校外国語研修
2. 小学校外国語研修
3. 小学校外国語授業づくり研修Ⅰ・Ⅱ
4. 指定教育研究校における校内研修指導
5. 教職員向け授業改善資料「はままつの教育」の作成及び学校訪問での指導・助言
6. 外部試験を活用した授業改善研修
7. 浜松市教育研究会（外国語科部会）と連携した研修
8. ALT（外国語指導助手）の資質・能力の向上にかかる研修
9. 新学習指導要領評価研修
10. 初任者研修
11. 2年目研修
12. 研究員研修
13. 第14期教師塾
14. スーパーティーチャーによる公開授業及び講義

1～14の研修内容の詳細は以下に記す。

1. 中学校外国語研修【浜松市教育センター】
講師 山田 誠志 調査官
新学習指導要領完全実施を踏まえ、各校・各自の外国語の指導や、評価の在り方について振り返り、外国語指導者としての力量を高める。
2. 小学校外国語研修【浜松市教育センター】
講師 直山 木綿子 視学官
新学習指導要領における各校・各自における外国語教育の取組や、外国語活動及び外国語科の授業を振り返り、指導と評価の在り方を見直すことを通して、外国語指導者としての力量を高める。
3. 小学校外国語授業づくり研修Ⅰ・Ⅱ【浜松市教育センター】
小学校外国語教育の授業づくり研修の一環として、年2回、希望者を対象に実施する。
各回の内容は以下の通りである。
 - ①小学校外国語授業づくり研修Ⅰ 「外国語科授業づくり」
 - ・小学校・中学校両方の教員を対象
 - ・新学習指導要領の理解を深めるとともに、高学年外国語科の授業づくりについて学ぶ。
 - ②小学校外国語授業づくり研修Ⅱ 「ALT等外部人材の活用」
 - ・小学校教員を対象
 - ・ALT派遣業者トレーナーを招き、外国語活動におけるALT等外部人材の効果的な活用の仕方を学び、指導力向上を図る。
4. 指定教育研究校における校内研修指導【浜松市教育委員会指導課】
令和2年度より、指定教育研究校において、小学校では教科担任制の研究、中学校では新学習指導要領に基づく各教科等の充実に関する研究を進めている。指定教育研究校において外国語科の校内研修に参加し、外国語の指導及び評価の在り方について指導・助言をする。

5. 教職員向け授業改善資料「はままつの教育」の作成及び学校訪問での指導・助言

【浜松市教育委員会指導課】

浜松市では、授業改善を推進し、児童生徒の資質・能力を確実に育成するため、毎年、教職員向け授業改善資料「はままつの教育」を発行している。2019年度は新学習指導要領についての理論編として、他教科とともに、外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力、見方・考え方、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等について説明した。2020年度は実践編として、「深い学び」の実現に向けた授業改善の具体や学習評価についてまとめた。それらを受けて、2021年度は学習評価編として、目標と指導と評価を一体のものとして捉えたうえで、指導改善を進めていくことについて説明している。さらに、「1. 資質・能力が身に付くように指導する」、「2. 資質・能力が確実に身に付いたかを評価する」、「3. 評価を指導改善・学習改善につなげる」という3つの視点で実践例を紹介している。

また、毎年、各教科等の指導主事が浜松市内の小学校、中学校及び高等学校への学校訪問を行っている。2021年度も、「はままつの教育」を基に、新学習指導要領の内容や授業改善を推進するための視点について指導・助言を行う。外国語担当指導主事が訪問をする学校では、参観した外国語活動や外国語科の授業を基に、資質・能力を確実に育むための「目標と指導と評価の一体化」について、重点的に指導・助言を行う。

6. 外部試験を活用した授業改善研修【浜松市教育委員会指導課】

モデル校 小学校3校 実施学年6年（11月に各校で実施）

中学校6校 実施学年2年（9月に各校で実施）

授業改善研修会（全校悉皆） 小学校 2月開催

中学校 12月開催

学習指導要領において4技能のバランスのとれた育成が求められたことから、外部試験を導入し、モデル校において実施することで、数的根拠を伴う客観的な成果とその検証を行う。

モデル校は規模や地域性、中核教員などを考慮して選定する。

外部試験実施後は、全校悉皆の研修を行い、浜松市の児童生徒の英語運用能力の傾向や、身に付けるべき資質・能力、授業改善の方向性について説明する。また、モデル校で顕著な成果が見られた学校がどのような取組を行っているかを紹介したり、現在抱えている指導上の課題や今後の授業改善についてグループ協議を行ったりする。

7. 浜松市教育研究会（外国語科部会）と連携した研修

【浜松市教育研究会（外国語科部会）及び浜松市教育委員会指導課】

4月に行われる浜松市教育研究会の外国語部主任者会において、指導課の指導主事が講師となり、外国語教育の動向や外国語教育推進に係る情報等を伝達する。

外国語教育にかかわる教員が一堂に会する第1回・第2回浜松市教育研究会では、指導課指導主事が、言語活動例や指導と評価の一体化について講義をする。

8. ALT（外国語指導助手）の資質・能力の向上にかかる研修【浜松市教育委員会指導課】

浜松市教育委員会では、生きた英語力育成事業として、60名のALTを配置している。ALTを対象とした、以下の研修を実施する。

①月例研修

JETプログラムALTを対象に、毎月1回指導課が研修を実施する。互いの授業実践を紹介したり、ALT派遣業者のトレーナーによる講義を行ったりして、ALTの指導力向上を図る。

②静岡県主催の外国語指導講師の指導力向上研修（SDC：Skill Development Conference）

浜松市から、JETプログラムALT全員と日本人英語担当教員が2日間参加する。ALTと日本人英語担当教員が協働して研修に取り組むことにより、各学校における効果的な外国語の指導に必要な知識や指導技術等を習得する。

9. 新学習指導要領評価研修【浜松市教育委員会指導課】

中学校における新学習指導要領全面実施を受け、各教科・領域の「指導と評価の一体化のための学習評価」研修動画を作成し、オンデマンド配信を行うことで、浜松市の教員が校内研修等において視聴できるようにする。

10. 初任者研修【浜松市教育センター】

全18回行われる研修のうち、中学校英語科教員、小学校の外国語を選択した教員を対象に、英語科、外国語活動・外国語科の教科指導等について学ぶ機会を5回設定する。詳細は以下の通りである。

- ①発問、指示、板書等の授業における基礎的な指導技術
- ②小・中学校の先導的な授業参観・研究協議
- ③授業づくりの基本、指導案検討（指導案の書き方、単元及び単位時間の授業構想）
- ④授業構想、指導技術（模擬授業、代表授業指導案事前検討）
- ⑤初任者代表授業参観・授業実践グループワーク

11. 2年目研修【浜松市教育センター及び浜松市教育委員会指導課】

全5回行われる研修のうち、中学校英語科教員、小学校の外国語を選択した教員を対象に、英語科、外国語活動・外国語科の研修を2回実施する。詳細は以下の通りである。

- ①新学習指導要領の理解、身に付けるべき資質・能力を明確にしたうえでの授業づくりの具体（6月）
- ②6月に検討した指導案の実践報告、指導力向上に向けた取組（11月）

12. 研究員研修【浜松市教育センター】

外国語活動研究員数：6名程度 研究期間：2年間

小学校外国語活動の授業に関連した実践的なテーマを掲げ、個人で研究を進め、論文等にまとめる。毎年2月に開催される発表会や論文の配布等を通して、浜松市全体に実践を広める。

13. 第14期教師塾【浜松市教育センター】

対象となる経験5年目程度の若手教員の中に英語科教員がいた場合、経験豊かで指導力のある師範教員の下で、授業研究及び協議を重ね、確かな指導技術を身に付ける。発表会では、その成果を報告し、浜松市全体に実践を広める。

14. スーパーティーチャーによる公開授業及び講義【浜松市教育センター】

浜松市優秀教員に選ばれた教員の中に英語科教員がいた場合、若手・中堅教員がその授業を参観したり、講話を聞いたりすることを通して、日常の指導において大切にすべきことや、子供の指導・支援の仕方について学ぶ。

